

講義名	スポーツ科学演習B（リラクゼーションエクササイズ）			授業形態	
担当教員	吉田 美智子	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

### 主題と概要

文明の利器によって日々自然が失われていく現代社会。多種多様なストレスと運動不足などによる体力減少により我々が持つ自然治癒力が低下していくのが現状である。目まぐるしく移り変わる現代社会において人々はどこかに癒しを求めたそれによって低下しつつある自分の自然治癒力を阻止めをし、且つ免疫力向上を何らかの手段により期待するようになった。その一つにリラクゼーションと呼ばれる「癒し」の力である。この授業では瞑想だけでも癒されるハワイの歌に女性らしやかに、男性は力強く、を基本に振りつけたフラダンスを体験することにより日頃の生活とは違う世界を経験された。また5000年の歴史をもつヨガを体験することにより精神・肉体・神経の三位一体のバランスの重要性を体感し、そして理解された。

また中国4000年の歴史により確立されている東洋医学の気・血・津液と言う3つの柱の相互関係と経穴（ツボ）を使った健康法を理解、体験する。特に自己免疫力向上に役立つとされている。最後に西洋医学、機能運動学から筋肉を調整する方法を学ぶことでバランス良い身体作りを体験するバランス良い身体は同時に精神面においても良い結果をもたらすとされている。それぞれの種目は現代社会とは相反する時間の流れですめていくものでありまた普段意識しなかつた動作や筋肉の動きをすることで自身の身体にとって新しい発見をする授業であってほしい。色々なリラクゼーション法というものがある中で自分にあったものを選択し、実社会で実践できるよう積極的に学習してもらいたい。

### 到達目標

1. 「健康」獲得の方法を修得できるようになる。
2. 歴史やルール、応用技術・基本戦術を理解し、説明できるようになる。
3. 応用技術・基本戦術を修得し、生涯にわたるスポーツ実践の礎とすることができるようになる。

### 提出課題

健康と運動の関連性についての講義後、その内容そったレポートを課す

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

それぞれに講評後、各自の成績に反映する

### 評価の基準

授業実施時間数の4回以上出席した者は単位を認定しない。  
 授業中の評価：受講態度など……………80%  
 期末期の評価：レポート提出……………20%

### 履修にあたっての注意・助言他

- ・必ず運動の出来る服装で参加のこと。
- ・授業の特性上遅刻は厳禁である。

### 教科書

### 参考図書

その他
-----

### 授業計画

- 1.講義：授業を受けるにあたっての注意事項と各種目の特徴と概略についての講義
- 2.身体ほくしのストレッチ
- 3.ヨガの呼吸・基本ポーズ
- 4.自律神経を整えるポーズ
- 5.精神を鍛えるポーズ
- 6.体幹を鍛えるポーズ
- 7.講義：基礎ハワイ語/フラダンスの歴史 と ハンドモーション、基本ステップの実技練習
- 8.やさしいフラダンス
9. #
10. #
- 11.ソフトエアロビクス 講義：有酸素運動について と 実際のステップ実技
12. #
13. #
14. #
- 15.講義：健康寿命と平均寿命について と 総論

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A～L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

ハワイ王朝とフラダンスとのつながりを調べておくこと  
 エアロビクスの呼吸法と有酸素運動の効果について調べておくこと  
 授業終了後は、授業を振り返り、反省点や課題等を整理しておくこと。  
 また、ヨガの呼吸法を練習しておくこと。  
 （合計4時間程度）

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目を受講し、目標を達成することで、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力の5項目および、健康スポーツ科学のキャリアプログラムポリシーへ貢献することができる。  
 業中や個人でスポーツ実践へ取り組み中で、明るく元気な、どのような場所でも物怖じすることなく、誰ともしっかり言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜く力、つまり「ネアカ のびのび へこたれず」の精神を育むことができる。また、問題点やその要因を発見し、自らが進んで取り組めるようになる。そして、他者に働きかけ、協力して課題へ取り組みることにより、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。  
 生涯にわたってスポーツと関わったり、健康の維持・増進に努めたりすることができるような知識を得て、理解することができる。  
 以上は、全学部・学科の所属学生へ共通している。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

### 実務経験の有無及び活用

実務経験有り  
 大手スポーツクラブで35年以上現場でエアロビクスの指導をおこなっていた。現在は自社スタジオにてヨガ指導を行っている

### 備考